第 168 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 30 年 5 月 31 日提出）

１．題　目：長崎大学における障害のある学生のための合理的配慮の発展と課題について Progress and Issues related to Reasonable Accommodations for Students with Disabilities at Nagasaki University (英語による FD)

２．日　時：　平成 30 年 4 月 4 日（水）　14：30 ～16：00

３．場　所：　長崎大学教育学部　第 5 会議室

４．主　催：　長崎大学 障がい学生支援室

５．対　象：英語による FD を受講したい本学及び県内大学・短大等の教職員

６．長崎大学ＦＤに関する申合せ第２第１項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　○　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行から約 2 年が経つ。現在の学生数や障害の種類の傾向を確認し，事例を通じて大学において障害のある学生のサポート（合理的配慮）における進展や課題について検証する。また，障害のある学生のみならず，全ての学生にとって有用と思われる「アクセシビリティー」を考慮したシラバス作成活動（グループワーク）も取り入れる。全教職員の意識改革および教員の教育活動改善に寄与するところに意義がある。また，県内の他の大学・短大等からの参加を呼びかけることにより，県内の高等教育機関において障害に対する理解促進にもつながると考えられる。さらに英語で実施することにより，日本語が流暢でない教職員に講習の機会が提供されるところにも意義があると考えられる。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）

1. 障害のある学生の現状（全国・本学）
2. 障害者差別解消法の施行から 2 年：大学関連の主な進展は？
3. 本学の事例を通じて，合理的配慮の考え方について理解を深める
4. 現在の課題について紹介し，考える
5. 「アクセシビリティー」を意識したシラバス作成に関するグループワーク
6. 質疑応答

※上記全ての項目は障がい学生支援室の専任教員ピーター・バーニックが担当した。

９．参加者：　6 名（本学教職員 3 名・県内他大学教職員 3 名）

（内訳）

所　　属	人　　数
多文化社会学部	1
経済学部	1
医歯薬学総合研究科	1
学外者（長崎外国語大学）	3
計	6

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）

1. 参加者

	長大教職員	外部	計
参加者数 回収数（回収率）	3 3（100%）	3 1（33%）	6 4（67%）
教育職員	3	2	5
事務職員	0	1	1

2.年代

	人数	%
40 代 50 代	3 1	75% 25%
計	4	100%

3.参加動機について（複数回答可）

	人数	%
自分自身や家族のため	1	25
仕事上必要なので	2	50%
障がい者の支援等に関心があるから	3	75%
社会的関心が高まっているから	1	25%
その他	2	50%
計	9	
実数	4	

4.講演会をどのようにして知りましたか（複数回答可）

	人数	%
メール	3	75%
部局からの通知	1	25%
その他		
計	4	
実数	4	

5.講演の内容はあなたの期待に合っていましたか

	人数	%
期待した内容でとても良かった	2	50%
まあまあ良かった	2	50%
期待に添わなかった		
その他		
計	4	100%

〈以下，アンケートの自由記述欄の設問と回答〉　※貴重なご意見等のため，全文記載

●今後，障がい者の理解及び支援等に関する講演でどのような内容を希望しますか

Workshops in English!
More practical info on how to work with our students. Maybe learn how to identify students with needs and how to best work with their disability.
I would like to have a session for sharing information on real cases of accommodation.

●意見・感想

I personally learned a lot during the workshop. Thank you very much for your great effort.

I found the workshop very useful and informative and am glad I attended.
It was a good introduction to the issues of handicapped student accommodation for faculty members who have not been heavily involved in the issues yet.
Overall, I thought the workshop was informative and gave me ideas on how to best work with my students. However, I think the topic was too broad. Some of the participants were interested in helping students with physical disabilities and some mental. I was only interested in learning about students with mental disabilities, since I have only had one student with a mobility issue (wheelchair) in 12 years of teaching, but several with emotional/mental problems every semester. Either have separate workshops or divide the workshop time to focus on different aspects of the topic.

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

今回は本学以外の県内大学から参加者 3 名もいたことはこの話題への関心の高さの現れだと考えられる。全参加者から回答が得られなかったことは残念ではあるが，得られた回答を見ると回答者全員は「とても良かった」あるいは「まあまあ良かった」と回答しており，有用な時間であったことが示唆された。

一方，この話題には法的背景，実務レベルでの合理的配慮の考え方，実際の配慮の実施，障害や配慮に関する講習等，たくさんの要素が含まれている。参加者の回答にもあったように，一つの研修で全ての要素を網羅することは困難であり，話題・課題に特化したワークショップの実施が望ましいと考える。また，日頃の業務に追われている教職員が多く，日本学生支援機構等から出されている様々な資料を全て読むことがほぼ不可能だと思われ，要点に焦点を合わせた，消化しやすい内容の提供が重要であると改めて認識した。さらに，合理的配慮は原則として個別の事情に応じて検討・提供されることから，合理的配慮の考え方や提供方法（補助機器の活用含む）に教職員がより馴染めるよう，継続して講習会を実施することが必要不可欠であると考える。物理的に参加することが困難な方のため，LACS 等オンラインで受講可能なプログラムを準備・提供することも有効であると思う。

１１．実施代表者の連絡先

部　局：障がい学生支援室
職　名：助教　　氏　名：ピーター・バーニック
e-mail：bernick@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２９４８

１２．申請者の連絡先

部　局：
職　名：　　（同上）　　氏　名：
e-mail：　　内　線：